

委員の先生方

江崎です。

昨日はお盆でお休みのところをお集まりくださりありがとうございました。

短い時間でしたが、中身の濃い話し合いになったかと思います。

お一人あたり、1本の原稿を想定していましたが、複数OKなら、それで行こうかと思えます。予算面は心配せず大丈夫です。

- ・修正したデータは、ファイル名にお名前を追加して、お送りください。
- ・行を追加するときは、行の範囲内で挿入してください。範囲外で記入すると、下の各項目数の計算式に反映されないのです。

昨日の打ち合わせについて、原稿執筆の方向性を以下にまとめました。

- 1 今回作成する指導資料は、中教審理科ワーキングで提示されている学習過程の項目(エクセルデータでは、アからクで示しています)から、重点的に指導する項目を選び、それに対する指導事例とします。ワンポイントアドバイスのなことでもいいだろう。
- 2 アからクの全部を網羅する展開は、現場は授業時数が足りず、実施するのが困難だからです。
- 3 原稿で重点とする項目は、多くて3つ程度とします。先ほど、山口先生とメールでやり取りして決めました。これ以上だと、内容の焦点化が難しくなると思います。
- 4 アクティブラーニングからの項目立てはしない。文科省でも、これがアクティブラーニングだという決定版はないとしています。中教審では、深い学び、対話的な学び、主体的な学びという言い方をしています。現場では、観察実験をしっかり行い、その後の考察も、分析して解釈するとの指導要領の項目から、言語活動を行いながら考察するとの実践事例が多く出ています。しかし、目的を持って観察実験しているかという、生徒が「やらされ感」をもっているのではないか。だから、観察実験が単なる作業となりやすい。観察実験前の、課題の把握や仮説の設定などが重要になる。これにより生徒が観察実験のねらいを把握すれば、主体的な学びにつながる。これまで先生方は熱心に指導をしてきました。これはアクティブティーチングである。これからは学びの主体者である生徒がアクティブに学習する授業展開が求められる。話し合えばアクティブ、ICTを使えばアクティブというのではなく、本質的に、生徒が自ら進んで課題に取り組もうとするような授業展開をしたい。このようにアクティブラーニングは、授業のある部分だけに適応するものではなく、全体に対応するものだと思います。ですから、指導事例では、アクティブラーニングの視点からこのように展開するとの方策を底流として触れていただければと思います。

- 5 グラフ作成や解釈、観察実験の技能など、3年間を通して指導する事例は、学年ごとの例を書きたくなりますが、この場合もある学年、領域に絞って展開し、補足的に各学年での学習に触れるようにする。
- 6 扱う内容は、必修の学習項目から選ぶようにする。活用などを書こうとすると、発展的な内容にしたいと思いますが、若手の先生は教科書の発展的な内容のところも、必修と勘違いし、授業でしっかり扱ったりしてしまうことが多いようです。(これは、指導要領の歯止め規定がなくなり、発展も無制限というところで、教科書にたくさん掲載されていることも原因ですが・・・) 事例で発展を扱うと、それを指導しなさいとのメッセージになってしまう。
- 7 特異な指導方法ではなく、誰もがやれそうで、やってみようと思えるような内容で(言うのは簡単で、実行するのは困難ですが・・・) 書いていく。
- 8 たとえば、呼吸の実験で、石灰水で調べようと提示したら、生徒にはすぐに、二酸化炭素が出ていると分かってしまいます。ですから、実験計画では、そのあたりで生徒に予想させるように展開したい。化学領域では危険な実験を計画する事もあり得るので、実験の全体像を提示し、子どもに項目ごとに選ばせたり、条件を返させたりするなどの工夫も必要でしょう。
- 9 文章記述では、生徒に「させる」 生徒が「する」の2つがありますが、どちらで書いてもよい。